

## 住まいへの思い

家を建てようとするお客様の思いはさまざまです。

子どものとき自分の部屋がなく、友だちを呼べなくて寂しかった。だから自分の子どもにはそんな思いをさせたくない。一緒に住んでいたお祖母ちゃんに可愛がってもらったことが、とてもいい思い出だ。自分も両親と仲よく同居できる家を建てたい――。

いろいろな思いや夢を胸に、住まいづくりに臨み、しかも大半の人は、何十年もの住宅ローンを背負う覚悟で決心されるのです。

あるお客様の話です。三十代のサラリーマンで、奥様とお子様二人の四大家族。多額の自己資金を貯め、月収のかなりの割合を占め

るローンを組んで、土地の購入とともに家を建築されました。なぜそんなことができるのか、若い営業担当は気にかかりましたが、深く考えないうちに契約が決まり、書類に捺印してもらったためお客様宅にうかがいました。

たまたまた夕食時で、食卓の様子が目に入りました。そこには大好きなはずのお酒がなく、おかずは納豆、冷奴、味噌汁といったたいへん質素なものでした。お客様はこんなふう日々コツコツと節約してお金を貯め、夢のマイホーム購入にこぎつけておられたのです。

彼は、住宅営業の本当の重みを知りました。それまでも一所懸命にプランを考えたつもりでしたが、予算の中で、これ以上できないくらい最高の家をつくってさしあげたいと思い、設計担当者とともに、プランの練り直しに取りかかったのです。